

四百年遠忌記念特別展

大名茶人

Art of Oda Urakusai, Samurai Tea Master

織田有楽斎

題字：真神巍堂

■2023年4月22日(土)～6月25日(日)／京都文化博物館

■2024年1月31日(水)～3月24日(日)／サントリー美術館

信長の弟にして、大茶人

【1】



狩野山楽筆 蓮鷺図襖(部分) 正伝永源院蔵【全図は4月22日～5月21日展示】

有楽斎(うらくさい)こと織田長益(ながます)は天文16年(1547)、織田信秀の子、信長の弟として生まれました。信長、秀吉、家康のもと、武将として活躍し、晩年には京都・建仁寺の塔頭である正伝院(しょうでんいん)を再興、隠棲します。正伝院内に建てた茶室(如庵)は国宝に指定され、各地に如庵の写しが建てられました。近代化の中で寺名を改めつつ、正伝永源院には現在も有楽斎ゆかりの文化財が数多く伝来しています。

文化人・有楽斎として名高い一方、武士・長益には悲観的なイメージが付きまといまいます。天正10年(1582)本能寺の変では、二条御所に籠る自らが付き従う信忠(信長長男)の切腹後、二条御所を脱出します。このため、京の人々には「切腹をすすめておいて、逃げた男」と揶揄されました。さらにその後、信雄(信長次男)に仕え、家康と秀吉の講和を調整するなど存在感を示したものの、信雄が改易されると今度は秀吉の御伽衆(おとぎしゅう)に加わります。関ヶ原の戦いでは東軍として参戦、戦後も豊臣家に仕えましたが、大坂夏の陣の前には家康の許可を得て主人から離れました。

織田、豊臣、徳川の3天下人に仕えて時流を乗り切り、75歳までの長い人生を「有楽斎」として京に隠棲した彼の心中には、どのような思いがあったのでしょうか。戦乱を生き延びた彼の美意識は現代の茶道に息づき、規範とされています。

有楽斎の四百年遠忌にあたり、正伝永源院に伝わる文化財を再度調査しました。ここで得られた知見をもとに、織田有楽斎という人物を今一度捉え直す展覧会です。

正伝永源院について

正伝永源院は京の禪寺・建仁寺の塔頭の一つです。「正伝院」と「永源庵」の二つの歴史があり、正伝院は鎌倉時代中期の文永年間(1264-1275)に開山し、永源庵は南北朝時代の正平年間(1346-1370)に開山したと伝わっています。

永源庵は当時の守護大名・細川家による帰依を受けました。一方、正伝院は江戸時代(1618年)に、織田信長の弟で茶人としても知られる大名・織田有楽斎により再興され、隠居所と茶室「如庵」が建てられました。

その後、明治時代の神仏分離令や廃仏毀釈の影響で、堂宇のみを残して無住となっていた永源庵に正伝院が移ることとなり、永源庵が廃寺となります。その際、「永源」の名が消えるのを憂いた細川侯爵家によって、正伝院と永源庵は合併し、寺号を正伝永源院と改め、現在までその歴史や貴重な寺宝の数々を守り伝えています。



本展の見どころ

1.有楽斎ゆかりの刀剣や茶道具の名品も

国宝「短刀 無銘 貞宗(名物寺沢貞宗)」(第1章)のほか、寂びの茶碗の代表格として有名な大井戸茶碗のうち、五指に入るといふ定評が与えられている「大井戸茶碗 有楽井戸」、「三島筒茶碗 銘 藤袴」(ともに第3章)など、有楽斎ゆかりの刀や茶道具の名品がそろいます。

2.狩野山楽と正伝永源院

安土桃山時代を代表する画家・狩野永徳の有力な門人で、京狩野初代・狩野山楽(1559~1635)による、「織田長益(有楽斎)像」(第2章)や「鍾馗図(しょうきず)」、「蓮鷺図襖(れんろずふすま)」(以上第4章)ほか、安土桃山の美を感じられる作品の展示を予定しています。

3.旧正伝院書院の障壁画を一堂に展示

長谷川等伯筆「四愛図」ほか、織田有楽斎が再興した正伝院の書院を飾っていた障壁画が一堂に揃います。

織田有楽斎(おだ・うらくさい)

天文16年(1547)－元和7年(1622)

有楽斎は織田信秀の子で、信長の実弟として天文16年(1547)尾張に生まれ、通称源五郎、名を長益といい、剃髪して有楽斎如庵と号しました。

本能寺の変で信長が倒れた後は、豊臣秀吉の配下となります。また、関ヶ原の戦い後、その功により家康から禄を与えられ、豊臣秀頼の補佐役として大坂城にて、東西対立の和平に奔走しますが不調に終わり、夏の陣を前にして大坂を退き、京都・二条に隠棲します。

元和3年(1617)12月には正伝院の借用を打診、翌年秋には優美な林泉と典雅な茶亭「如庵」ならびに客殿、庫裏を完成したようです。そうして75年の生涯を閉じるまで、茶道三昧の生活をこの寺で送りました。如庵は現在は愛知県犬山市に移築されており、現存する国宝茶席3名席の1つとなっています。



古潤慈稽賛・狩野山楽筆
織田有楽斎像 正伝永源院蔵
【4月22日～5月21日展示】

【章構成と主な作品】

第1章 織田長益の活躍と逸話 —“逃げた男”と呼んだのは誰か

本能寺の変で、織田有楽斎こと長益は脱出し生き延びたことから、江戸時代の歴史書で長益を“逃げた男”と評価を下すものがあります。果たして、“逃げた男”というのは正しい評価なのでしょうか。本章では、この点に立脚し、武将・織田長益の実像を、歴史資料を通して見つめ直し、その真の姿に迫ります。



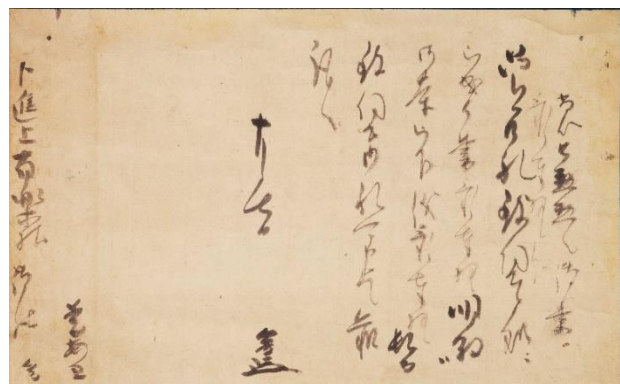
国宝 短刀 無銘 貞宗(名物寺沢貞宗)
文化庁蔵
【5月23日～6月25日展示】

第2章 有楽斎の交友関係

本能寺の変後、長益は豊臣秀吉に仕えたのち徳川家康との関わりを深くしました。大坂夏の陣の前に京都・二条へ移って、建仁寺の塔頭・正伝院を再興、出家して有楽斎と号しました。その後も茶の湯にまい進し、名僧や武将らと茶会を開きます。本章では、有楽斎が遺した書状を中心に、茶人や文化人として活躍した彼の姿を紹介します。



織田有楽書状 石川玄蕃宛 正伝永源院蔵
【4月22日～5月21日展示】



千道安書状 織田有楽宛 正伝永源院蔵

第3章 数寄者としての有楽斎

有楽斎は茶の湯を介して大名や町衆との交わりを深め、当時の茶の湯に重要な役割を果たすようになっていました。正伝院に茶室「如庵」を造営し、茶の湯三昧の日々を送り、多くの茶道具を有したと伝わります。本章では、現代に伝わるかつて有楽斎が所持した、あるいは好んだとされる茶道具の名品から、有楽斎の美意識を紹介します。

【3】



大井戸茶碗 有楽井戸 東京国立博物館蔵
Image:TNM Image Archives

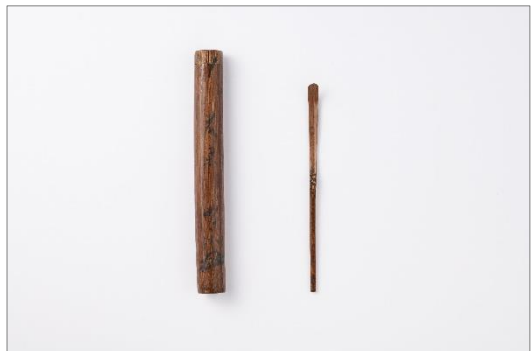
【4】



青磁輪花茶碗 銘 鋸 マスプロ美術館蔵



肩衝茶入 銘 残月 文化庁蔵



織田有楽作 茶杓 銘 落葉 正伝永源院蔵

第4章 正伝永源院の寺宝

有楽斎の菩提寺である正伝院と、大名の細川家の菩提寺である永源庵の2つの由緒を持つ正伝永源院には、貴重な絵画、墨蹟類、そして寺内にのこる狩野山楽の襖絵など、桃山時代にさかのぼる寺宝が現在も脈々と継承されています。本章では、有楽斎没後の歴史を正伝永源院の寺宝を中心にご紹介します。

【5】



長谷川等伯
旧正伝院書院障壁画のうち山水図(部分)
名古屋鉄道株式会社蔵
【5月23日～6月25日展示】

【6】



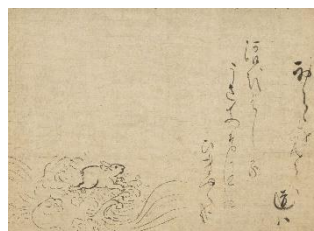
扁額「如庵」 正伝永源院蔵

【7】



富岡鉄斎 如庵図
正伝永源院蔵

【8】



織田頼長筆 波に卵図
正伝永源院蔵



伝徹宗筆 架鷹図(8幅のうち)
正伝永源院蔵
【前・後期で入れ替え
(本作品は4月22日～5月21日展示)】

第5章 有楽斎と正伝永源院 —いま、そしてこれから—

戦国の世に生を受け、織田家の血筋として時の政治に利用されながらも、武将として、文化人として生き抜き、新たな文化創造をなした有楽斎。現在に伝わるその茶風は武家らしくない柔らかな点前といい、有楽斎の格式張らずにそのままの姿で客をもてなす心を、いまに体现していると言われています。



武野紹鷗供養塔 正伝永源院

鳴かぬなら 生きよそのまま ホトギス

(織田有楽斎四百年遠忌実行委員会が有楽斎のひととなりを偲んで作成した句です)

本章では、有楽流茶道や、有楽が茶道の師として敬愛した武野紹鷗の供養塔設置時の動画など、正伝永源院のいまの姿をご覧ください。



伝仁阿弥道八 黒楽「正傳院」字茶碗 正伝永源院蔵

四百年遠忌記念特別展「大名茶人 織田有楽斎」

◆京都会場

- 【会 期】 2023年4月22日(土)～6月25日(日)
【会 場】 京都文化博物館 (〒604-8183 京都市中京区三条高倉)
【開室時間】 10:00～18:00(金曜日～19:30)※入場は閉室30分前まで
【休 館 日】 月曜日(5月1日は臨時開館)
【入場料金】 一般1,600(1,400)円、大高生1,000(800)円、中小生500(300)円
(消費税込) ※()内は前売および20名以上の団体料金。
※未就学児は無料(ただし、要保護者同伴)。
※学生料金で入場の際には学生証をご提示ください。
※障がい者手帳などをご提示の方と付き添い1名までは無料。
※上記料金で2階総合展示と3階フィルムシアターもご覧いただけます
(ただし催事により有料の場合があります)。
※前売券は2023年2月22日(水)～4月21日(金)までの期間限定販売
(会期中は当日券のみ)。



【主なチケット販売所】

京都文化博物館、ローソンチケット(Lコード:55600)、チケットぴあ(Pコード:994-040)、セブンチケット、イープラス、美術展ナビチケットアプリほか

■正伝永源院×織田有楽斎展 相互割引

本展開催期間中、正伝永源院の拝観券のご提示で本展当日券が100円引きに、本展チケット(半券可)のご提示で正伝永源院の拝観料が100円引きになります。
※1枚につき、お一人様1回限り有効。他の割引との併用不可。 ※拝観時間などの詳細は正伝永源院公式サイトをご確認ください。

【主 催】 京都府、京都文化博物館、正伝永源院、読売新聞社

【特別協力】 織田有楽斎四百年遠忌実行委員会、株式会社エリジオン、NTTコミュニケーションズ株式会社、ソニーマーケティング株式会社

【協 賛】 清水建設

【後 援】 (公社)京都府観光連盟、(公社)京都市観光協会、KBS京都、エフエム京都

◎会期中一部展示替えを行います

◎最新情報や関連イベントはウェブサイト(<https://www.bunpaku.or.jp/>)でご確認ください

◆東京会場

【会 期】 2024年1月31日(水)～3月24日(日)

【会 場】 サントリー美術館 (〒107-8643 東京都港区赤坂9-7-4 東京ミッドタウン ガレリア3階)

企画チケット ※価格は全て消費税込 ※画像はイメージです

◆SOO-ソマルー×織田有楽斎展オリジナル京友禅「おふき」付チケット

絹を素材にした京友禅職人による手染めの眼鏡拭き「おふき」が付いたお得なセット券

販売価格：前売券2,600円、当日券2,800円（一般のみ）

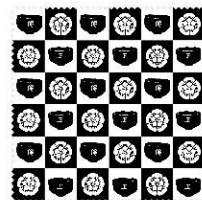
販売期間：2023年2月22日（水）～

販売場所：セブンチケット

商品引換期間：2023年4月22日（土）～6月25日（日）（展覧会会期中）

※数量限定。上限に達し次第、販売終了いたします。

※引換券をご持参のうえ会場内特設ショップでお引換えください。



◆祇園辻利スイーツ「抹茶せんべい」付前売チケット

軽やかな食感と上品な甘さがさわやかな、祇園辻利「抹茶せんべい」付のお得な前売セット券。

販売価格：前売券2,100円（一般のみ）

販売期間：2023年2月22日（水）～4月21日（金）

販売場所：チケットぴあ（Pコード：994-040）

商品引換期間：2023年4月22日（土）～6月25日（日）（展覧会会期中）

※引換券をご持参のうえ会場内特設ショップでお引換えください。



◆ナイトミュージアムチケット

5月6日（土）の閉室後、ゆったり鑑賞できるプレミアムな音声ガイド付チケット。

販売価格：2,500円（一般のみ）

日時：2023年5月6日（土）18:00～20:00（入場は19:00まで）

定員：100名

販売期間：2023年2月22日（水）～5月5日（金） ※先着順。定員に達し次第、販売を終了します。

販売場所：イープラス

関連イベント

◆講演会「有楽の茶の湯」

講師：筒井紘一氏（京都府立大学客員教授、茶道資料館顧問）

日時：2023年5月17日（水）14:00～15:30（受付は13:30～）

場所：京都文化博物館 別館ホール

定員：200人

参加費：無料（ただし本展チケット〈半券可〉が必要）

＜申込方法＞往復はがきに住所・氏名（返信面にも）・電話番号・希望イベント名を記入し、京都文化博物館「織田有楽斎展」係か、同館HP「特別展イベント申込フォーム」

（https://www.bunpaku.or.jp/exhi_special/form/）よりお申し込みください。

※先着順。定員に達し次第、受付を終了します。※参加者1名ごとにお申し込みください。

◆ギャラリートーク

日時：2023年4月26日（水）、5月31日（水）、6月21日（水） 各日14:00～（30分程度）

場所：京都文化博物館4階・3階展示室内

※事前申込不要、参加費無料（ただし、当日の入場者に限ります）

音声ガイド



音声ガイドナビゲーターに声優の鳥海 浩輔さんが決定！

様々な“声”の世界で活躍する鳥海 浩輔さんが、戦国の世を生き抜いた織田有楽斎の実像に迫ります。

貸出料金：600円（消費税込）

＜鳥海 浩輔（とりうみ こうすけ）プロフィール＞

『NARUTO -ナルト-』犬塚キバ役、『テニスの王子様』千石清純役、『テイルズ オブ ヴェスペリア』ユーリ・ローウェル役、『弱虫ペダル』今泉俊輔役、『ジョジョの奇妙な冒険 黄金の風』ガイード・ミスタ役、『刀剣乱舞-ONLINE-』三日月宗近役、『うたの☆プリンスさまっ♪シリーズ』愛島セシル役、『薄桜鬼』斎藤一役など、人気作品に数多く出演。また、『「鬼滅の刃」上弦集結、そして刀鍛冶の里へ』上弦の伍・玉壺役も担当。現在YouTubeチャンネル『鳥さん学級』も好評公開中。

グッズ情報 ※画像はイメージです

■ 展覧会オリジナルグッズを会場内特設ショップにて限定販売

天橋立ワイナリー × 織田有楽斎展
葡萄酒セット



販売価格：2,500円（消費税込）

前田珈琲 × 織田有楽斎展
オリジナルドリップパック



販売価格：1個200円（消費税込）

※上記商品の他にも多数ご用意しておりますので、ぜひ会場内特設ショップでご確認ください。

※商品の転売はお断りいたします。転売等のトラブルに関しては、一切責任を負いません。また状況により予告なく、商品ラインナップ、商品名、価格、デザイン、仕様などが変更または販売中止になる場合があります。

※商品の数には限りがあります。品切れの場合もございますのでご了承ください。

※販売在庫に関するお問い合わせや入荷予定等には回答できません。

【広報画像申込書】 四百年遠忌記念特別展「大名茶人 織田有楽斎」

【1】～【9】の広報用画像を提供いたします。ご希望の場合は、下記よりお申込みください。

【申込フォーム】 <https://forms.gle/R1EBqYoPE5GFqfwS6>

※入力が難しい場合は、広報事務局までお問い合わせください。



【広報画像使用に関する注意事項】

- 本展広報目的での使用に限ります(会期終了まで)。使用後は、データの破棄をお願いいたします。
- 展覧会名、会期、会場、クレジットは必ず記載してください。
- 作品画像は全図でご使用ください。トリミング、文字乗せなどの加工・改変はできません。
- 転載、再放送など、二次使用される場合は別途申請をお願いいたします。なお、展覧会終了後の二次使用はできません。
- webサイトに掲載する場合は、72dpi 以下、400×400pixel 以下の解像度にし、コピーガードをかけてご掲載ください。
- 基本情報、画像使用などの確認のため、ゲラ刷り・原稿段階のものを「広報事務局」にお送りください。
- 掲載・放送後は、必ず掲載紙(誌)、同録DVDを下記「広報事務局」までお送りください。

【広報画像・キャプション一覧】ご希望の画像番号の□に✓をお願いします。

番号	クレジット一覧
1□	狩野山楽筆 蓮鷺図襖(部分) 正伝永源院蔵 【全図は4月22日～5月21日展示】
2□	古淵慈稽賛・狩野山楽筆 織田有楽斎像 正伝永源院蔵 【4月22日～5月2日展示】
3□	大井戸茶碗 有楽井戸 東京国立博物館蔵 Image:TNM Image Archives
4□	青磁輪花茶碗 銘 鋙 マスプロ美術館蔵
5□	長谷川等伯 旧正伝院書院障壁画のうち山水図(部分) 名古屋鉄道株式会社蔵 【5月23日～6月25日展示】
6□	扁額「如庵」 正伝永源院蔵
7□	富岡鉄斎 如庵図 正伝永源院蔵
8□	織田頼長筆 波に卵図 正伝永源院蔵
9□	チラシビジュアル

【9】



貴社名／	ご所属部署／
ご担当者／	TEL／
E-mail／	
貴媒体名／	媒体種／
掲載号・露出予定日／	月号(月 日号)／ 月 日発売予定 □WEBへの転載あり
サイトURL／	
媒体プレゼント用チケット／□希望(2組4名まで)※1点以上の広報用画像使用必須 お送り先／〒	

【報道に関するお問い合わせ】

四百年遠忌記念特別展「大名茶人 織田有楽斎」京都会場広報事務局(ネネラコ内)

E-MAIL / odaurakusai-kyoto@nenelaco.com TEL / 06-6225-7885 FAX / 06-7635-7587

〒531-0072 大阪市北区豊崎3-15-5 TKビル